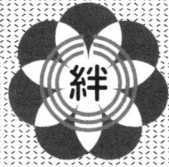


東京都退職校長会

会報



発行所 東京都退職校長会
 発行者 角田 美枝子

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 鈴木日退連共同ビル5F
 電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://totaikou.jp/>

【はじめに】

歴史的な猛暑の夏でしたが、本会では歩みを緩めることなく、八月に正副会長会、業務運営改善委員会、五団体との教育懇談会、教育研究プロジェクト・チームの会合等をもちました。

そこには、東京都退職校長会を思いうお一人お一人の熱意が溢れていました。

【教育研究プロジェクト・

チームが始動】

今年度新たに立ち上げた「教育研



東京都退職校長会の発展を目指して
 新委員会の活動開始

東京都退職校長会会長 角田 美枝子

究プロジェクト・チーム」も、草野一紀委員長のもとに活動を開始しました。全会員が教育の専門家である本会は、創立以来一貫して「教育への寄与」を目的に掲げてきました。

そこで本チームは、会員の皆様が地域社会の中で携わっておられる「学校教育等への貢献活動」の実状調査から研究に取り組むことにいたしました。支部長及び会員の皆様には、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。

なお、研究に要する費用は、日本

教育公務員弘済会の「団体教育研究助成金」を活用します。

【五団体との教育懇談会】

コロナ禍を経て四年ぶりに教育五団体（園長会・校長会）との懇談会を開催しました。出席してくださいました幼・小・中の会長・副会長方から、教育の現状と課題を丁寧に説明していただきました。その後の意見交換では、本会の会員減少という課題に対して、貴重なご意見と具体的に協力していただける内容を示していただき、感謝の念を抱きました。本会

からもホームページの連携をお願いする等、積極的に発言し、有意義な懇談会でした。

【東京都教育庁を表敬訪問】

東京都の浜佳葉子教育長はじめ、田中愛子教育庁次長、藤井大輔教育監、山田則人総務部長にご挨拶をいたしました。本会の「教育への寄与活動」を中心にご説明したところ「退職した校長方に教員の働き方改革をサポートしていただきたい。」「子どもに寄り添ってきた退職した校長方が一番よいと思っています。」等、本

主な記事

- P1 巻頭言 会長挨拶
- P2 令和五年度 定期総会
- P3 五団体との教育懇談会—報告—
- P4 本部委員会の活動—教育研究プロジェクトチーム
- P5 支部だより、令和五年度『第2回会員研修会』のご案内
- P6 高齢者叙勲受章会員、支部間交流
- P7 地方会員の声、新入会員の声
- P8 物故者、応募コーナー、編集後記

【終わりに】

本部役員等一同、本会の課題解決に向かって真剣に取り組んでおります。私は「運営の基盤は親睦」の信念のもと、温もりのある運営を心掛けてまいります。会員の皆様におかれましては、実りの秋を満喫して、お健やかに過ごしてください。

会との連携が話題になり、会員の活動に高い関心と期待を寄せていただきました。

また、会員の皆様が関心を示されている「六十五歳定年制」について十月の支部長会でご説明を依頼したところ、東京都教育庁人事部 勤務課長 石毛朋充様が快くお引き受けくださいました。

令和五年度 定期総会

【定期総会概要】

令和五年度定期総会が、四年ぶりに六月二十六日（火）、四ツ谷駅前の主婦会館プラザエフにて開催されました。東京都教育庁指導部指導推進担当部長市川茂様はじめ十三名のご来賓にご臨席賜り、会員九十五名の参加で行われました。三名のご来賓のご挨拶に続き、長寿会員の紹介、功労会員への感謝状贈呈、榮譽会員紹介のセレモニーが行われ、多田丈夫会長から創立七十周年記念式典の御礼が述べられました。

続いて鈴木正孝千代田・中央支部長、吉田和夫狹江支部長お二人の議長のもと令和四年度の会務報告、決算報告。令和五年度の新役員、事業計画、予算案顧問・参与の推戴に関する審議が行われ、承認をされました。これに伴い角田美枝子新会長による新体制がスタートいたしました。

（総務部担当副会長 赤坂寅夫）

【来賓祝辞】

東京都教育庁 指導部
指導推進担当部長 市川 茂

第70回の定期総会が盛大に開催されますこと、また、創立70周年を迎えられましたことお祝い申し上げます。

今年度、都教育委員会では、「自らの未来を切り拓く力の育成」「子供の目線に立った支援の充実」「教員の働き方改革等による指導充実」の3つの柱により、新規・拡充事業の推進、きめ細やかな教育を推進しております。

新たに設置したグローバル人材育成部では、社会の中で活躍できる英語力の向上を図ってまいります。また、デジタル人材等の育成、日本語指導の充実、不登校やヤングケアラー等への支援、休日部活動の地域連携、教員のメンタルヘルスといった様々な課題の解決に向けて、新たな事業を実施いたします。

豊かな御経験に裏付けられた、教育への高い見識を有する退職

校長会の皆様には、東京都の教育の一層の充実と子供たちの健やかな成長のために、今後ともお力添えくださいますよう、お願い申し上げます。

全国連合退職校長会

会長 田中 昭光

ただ今、ご紹介頂きました全国連合退職校長会会長田中昭光です。6月の総会で推薦され、前会長入子氏を引き継いで会長の重責を務めることになりましたが、全連退へのご理解・ご協力をお願いいたします。

国は、児童生徒が急激に変化していく将来社会を担っていくために必要な資質・能力の育成を目標に令和の日本型教育を構築し、学校教育の改善、教員の資質能力の向上を求めています。貴退職校長会では、教育尊重の気運を高め教育の振興に寄与することを目的としてご活躍されておりますことに対し、深く敬意を表しております。

近年、全国の退職校長会員の高齢化や入会者が減少していることが懸念されておりますが、

退職校長会としてこれまでに行ってきた活動を継続していくことが力であることを会員一同心に刻み、今後も一層活動の充実に努めていくことを誓い、ご挨拶いたします。

東京都公立小学校校長会

会長 植村 洋司

東京都退職校長会令和5年度定期総会が盛大に開催されますこと、誠におめでとうございませう。東京都退職校長会の皆様には、日頃より現職の校長を支えていただくとともに、人材育成を推進し、「国際都市東京の教育の振興に寄与」され、敬意を表します。

日本の学校教育が大きな転換期を迎えるこのとき、改めて「学校を元気にする」とともに「教員を元気にする」ということを大事に、東京都の校長が一致協力し、学校経営の充実に努めてまいりたいと思っております。

今後は、貴東京都退職校長会と東京都公立小学校校長会が、より一層連携を深め、さらに前進してまいりたいと存じます。

五団体との教育懇談会—報告—

8月23日（水）、四年ぶりの五団体との教育懇談会が開催されました。会場は本会事務局がある日本退公連・鈴木共同ビルの3階会議室。13時30分より16時まで行いました。和田万季子幼稚園・こども園長会会長、松原修小学校長会副会長、山本周一中学校長会会長が参加下さいました。ご都合で参加いただけなかった高等学校、特別支援学校の会長からは紙面での情報をいただきました。

会は赤坂寅夫副会長の司会で進行了しました。記念撮影、会長挨拶、自己紹介、各代表からの教育課題の情報提供と続きました。

その後、角田美枝子会長から本会の喫緊の課題「会員の増強」「財政の安定化」について、また課題解決への主たる事業活動として「教育研究プロジェクトチーム」「財政安定化委員会」

等の立ち上げの説明が行われました。

続いて、桐谷澄男筆頭相談役からの会員増強に関する対策の説明が行われました。

次いで質疑・応答・意見交換に移りました。各代表からは、それぞれの団体での特徴を踏まえた本会に対する示唆ある発言をいただくと共に、本会からも質問を行いました。

（広報部長 榎本 勉）



教育懇談会参加者

***幼稚園・こども園**
全ての子どもたちに

質の高い幼児教育を

東京都国公立幼稚園・こども園

園長会 会長 和田 万希子

令和5年4月、こども基本法

が施行され、こども家庭庁が設立されました。少子化への危機感を背景に、今、様々な子育てへの支援策が打ち出されています。私たち国公立幼稚園・こども園は、「こどもまんなか社会」の実現のために、地域の全ての子どもたちに質の高い幼児教育を提供し、一人一人の育ちを支えるとともに、地域のセンター的役割としての責務を果たしていかなければならないと考えています。

ここ数年、公立園の園児数は激減しています。課題は山積していますが、教員の資質向上、社会のニーズに応じた子育ての支援等、組織力を生かして取り組んでまいります。

東京都退職校長会におかれましても、国公立幼稚園・こども

園に力強いご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

***小学校**

東京都公立小学校長会

会長 植村 洋司

当面する課題は様々あるが、特に「教員不足」は義務教育の根幹を揺るがす喫緊の課題と捉えている。これまでは質の向上を課題としてきたが、今や量の確保が全国的に求められている。国の動向として、中教審の論議に注視する必要がある。更なる働き方改革、処遇改善、学校の指導・運営体制の充実が論議の3本柱である。来春を目的に答申がまとめられるが、今夏明けに緊急提言を発信する見通しである。あわせて、骨太の方針が6月に閣議決定され、教育に手厚い内容が盛り込まれている。今後とも、東京都退職校長会、都教委、関係団体との連携を強化し、「学校を元気にする」ために尽力したい。

***中学校**

東京都公立中学校の現状と

課題について

東京都中学校長会

会長 山本 周一

令和4年度の教員は40歳未満が約52%であり、40歳以上55歳未満が約29%となっている。いわゆる子育て世代の教員が多く、子育てと勤務とを両立できる環境づくりが大切である。一方で4級職以上を担う教員の数が少なく、今後持続可能な学校経営を進める上での課題ともなっている。

現行学習指導要領の実施にあたっては、ICTの活用や生徒の主体的な学びをいかにデザインするかという取組が求められ、その指導や評価が継続的な課題となっている。スクールサポートスタッフ等は80%を超える学校に配置され働き方改革の一助となっている。

生徒に視点を当てると、暴力行為などの問題行動は継続的に減ってきているが、不登校出現

率は増加傾向にあり、近年は約5%程度となっている。

***高等学校**

東京都公立高等学校長協会

会長 井上 隆

東京都教育委員会は令和五年三月に『都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム』を発表し、「自ら未来を切り拓く力の育成」「生徒目線に立った支援の充実」「質の高い教育を実現するための環境整備」の三つの方針に基づく三十の施策の展開を発表しました。これらの施策の各校の実態に合った形での実現と併せて、昨年度からの引き続きとなる新学習指導要領の段階的实施、観別学習状況による評価の検証・改善、一人一台端末の拡大、業務改善・教職員の働き方改革、大学入試改革への対応、入選男女別定員制への対応など解決を迫られている課題も山積しています。

東京都公立高等学校長協会はこれら喫緊の課題に対応・解決

し、より良い教育の実現に努めてまいります。

***特別支援学校**

東京都立特別支援学校長会

会長 丹野 哲也

今年度は、東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画（三年計画）の2年目になります。特別支援教育の更なる推進に向けたモデル事業等を着実に進めてまいります。

本年3月には、冊子「校長必携 校長の使命の伝承」を作成しました。これは、特別支援学校長として、必要となる知見や情報等を後進に伝承していくためです。冊子編纂過程を通して、校長間のコミュニケーションを図る機会となりました。

都特長会一丸となって共生社会の形成に向けた取り組みを推進してまいります。

引き続き、貴会皆様からの御指導と御鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

本部委員会の活動 — 教育研究プロジェクトチーム

委員長 草野一紀

新会長の意向で新しく立ち上ったチームです。このチームの目的は、「東京都の教育の振興に寄与する」という本会の目的の達成に向け、私たちは何をすべきか、また何ができるのかを、これまでの本会の実績を踏まえて明らかにし、会の今後の活動の指針を定める上での参考になる資料を作成することと考えています。

具体的には、各支部あるいは会員個人の学校教育への支援の実状を調査し、東京都退職校長会が組織として学校を支援する方策について、都教委あるいは地教委との連携も視野に入れ、探求していこうと考えています。成果が来期からの会の活動に反映できるような研究になるよう努力してまいります。なお、この研究の一部は教育公務員弘済会が募集している研究助成制度を活用する予定です。

支部だより

充実した支部活動を！

板橋支部長 橋本 由美子

板橋支部の最年長者は白寿の方で、幼・小・中・高各校種の会員で交流を深めています。今年度の支部総会は新会員一名を仲間に加え、久々に会が若返りました。主な活動は、

○板橋区教育長・指導室長・セクター長との懇話会を行い、教育現場の現状を知る。

○小中学校校長会会長校（小中隔年）を訪問し、学校施設見学・現職校長先生方との交流を図る。

○会員での昼食会・新年会・お花見を開催する。

○支部会報を充実させ、会員の交流を図る（紙上作品展も含む）

会報、紙上作品展は担当者が創意工夫され会報を楽しみにしている方も多いです。適度に体・頭・手を使い、知的好奇心を持ち続ける支部でありたいです。

本年度の課題

「親睦・研修・会員増」

千葉中部支部長 菅原 賢男

コロナ禍で、ここ数年総会・懇親会、研修会が持てず、支部活動も停滞気味でした。

本年、コロナ規制が緩和されたことで、四年ぶりに総会・懇親会を開催しました。懇親会では参加者一人一人が近況を報告したりゲームを楽しんだり和やかなひと時を過ごしました。

第一回の役員会は、二名の新しい役員を迎え、新鮮なスタートを切りました。会員増については、未加入者を洗い出し、入会案内を送付しようという事になりました。また研修部では、「合唱と身体ツボ」を組み合わせて心身の活性化を図るという取り組みを計画。準備を進めています。新しい取り組みの中で、早速、新規加入者が一名あり、役員一同、喜んでいきます。

令和5年度 『第2回会員研修会』のご案内

東京都退職校長会 生涯学習部

令和5年度第2回『会員研修会』を下記の要項で実施いたします。
当日はガイドが同行します。ご参加をお待ちしています。

- 日時 令和5年11月17日（金） 13時30分～16時00分
- 場所 東京大学構内 ⇒ 無縁坂 ⇒ 旧岩崎邸庭園（散策）

「生き生き人生をめざして」

～大銀杏の黄葉、三四郎池周辺の紅葉等を散策し心身共に高揚しよう～

趣旨 例年この時期は東京大学の大銀杏並木の黄葉が美しく、三四郎池周辺の紅葉も始まっていると思われる。事務所に最も近い旧岩崎邸庭園に行ったことがない方々も多い。秋も深まるこの時期に、散策を満喫したい。

お願い

- ①集合場所 東京大学赤門前（地下鉄丸ノ内線 本郷3丁目駅下車徒歩8分
または 地下鉄大江戸線 本郷3丁目駅下車徒歩6分）
- ②集合時刻 13時20分 揃ったら、伊藤国際学術センター門から入ります。
- ③旧岩崎邸庭園は入園料200円（65才以上）です。
各自お買い求めください。身分を証明するものが必要と思われます。

高齢者叙勲受章会員

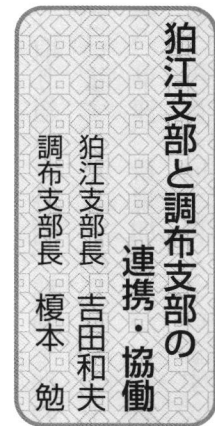
栄えの受章お祝い申し上げます。(敬称略)

(令和5年7月10日現在 本部に届けがあった方々)

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 瑞宝双光章 5名 | 荻原 武雄 (大 田) | 荻久保高幸 (千葉西部) |
| 小菅 和子 (墨 田) | 小阪 順二 (中 野) | 中西 守男 (埼玉県) |

(福利厚生部担当副会長 増田 稔)

支 部 間 交 流



東京都退職校長会の活力と魅力を高めるためには、新入会員増加をもたらす各支部の活動内容の充実が求められます。

この度、隣接市である狛江市と調布市では支部相互の連携・協働を図ることにしました。

旧知であった支部長・副支部長を中核に、相互の交流を深め、それぞれの活動に参加する形で、行政区の違いを乗り越え、相互活動を展開し各支部の活力と魅力を相互に高め合います。

当面はお互いに各支部総会に参加したり、研修会に参加したり、文集などに寄稿したりする活動を展開してまいります。

かつて狛江・調布・府中は同一支部であったと聞きます。直ちに合併するのはなかなか難しいでしょうが、小規模支部の新たな活動にぜひご期待ください。



がんと向き合う人を支える基本のがん保険

<生きるためのがん保険Days1>入院給付金日額 5,000円		オリジナルプラン	保険期間	月払保険料例 個別取扱																					
診断給付金	初めて「がん」「上皮内新生物」と診断確定されたとき	がん・上皮内新生物それぞれ1回限り	一時金として がん 上皮内新生物 50万円 5万円	左記プランの場合 解約払戻金なしタイプ 保険料払込期間: 終身/定額タイプ 特定保険料払込免除特約なし																					
入院給付金	「がん」「上皮内新生物」の治療を目的とする入院をしたとき	日数無制限	1日につき 5,000円	<table border="1"> <tr> <th>年齢</th> <th>男性</th> <th>女性</th> </tr> <tr> <td>60歳</td> <td>3,440円</td> <td>2,080円</td> </tr> <tr> <td>65歳</td> <td>4,110円</td> <td>2,330円</td> </tr> <tr> <td>70歳</td> <td>4,750円</td> <td>2,580円</td> </tr> <tr> <td>75歳</td> <td>5,375円</td> <td>2,855円</td> </tr> <tr> <td>80歳</td> <td>6,000円</td> <td>3,185円</td> </tr> <tr> <td>85歳</td> <td>6,695円</td> <td>3,615円</td> </tr> </table>	年齢	男性	女性	60歳	3,440円	2,080円	65歳	4,110円	2,330円	70歳	4,750円	2,580円	75歳	5,375円	2,855円	80歳	6,000円	3,185円	85歳	6,695円	3,615円
年齢	男性	女性																							
60歳	3,440円	2,080円																							
65歳	4,110円	2,330円																							
70歳	4,750円	2,580円																							
75歳	5,375円	2,855円																							
80歳	6,000円	3,185円																							
85歳	6,695円	3,615円																							
通院給付金	「がん」「上皮内新生物」の治療を目的とする次のいずれかの通院をしたとき ①特定の治療(*1)のための通院 ②初めて診断確定をされた日、所定の治療(*1)を受けた日、または退院日の翌日から365日以内の通院	①日数無制限 ②通院期間中(365日以内)日数無制限	1日につき 5,000円	一生保障																					

・保障の開始まで所定の待ち期間(保障されない期間)があります。
 (*1)所定の治療とは、手術・放射線治療(電磁波温熱療法を含む)・抗がん剤治療(経口投与を除く)・ホルモン剤治療(経口投与を除く)をいいます。
 ・ご契約の際には、「契約概要」「注意喚起情報」「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。
 ・個人情報の利用目的：アフラック等各種商品やサービスの案内・提供・維持管理に利用します。詳しくは弊社HPをご参照ください。

保険料は、2023年4月現在のものです。
 ※健康状態によっては、記載の保険料と異なる場合があります(保険料が割増となる場合があります)。お申込み後にアフラックから送付する書面をご確認ください。

資料請求・お問い合わせ・お申込みは
 (平日 9:00~20:00 土日祝 9:00~17:00)

0120-357-212

〈募集代理店〉アフラックは代理店制度を採用しております

(引受保険会社)

三井住友信託銀行グループ
三井住友トラスト・ライフパートナーズ
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

「生きる」を創る。 **アフラック**
 東京第一法人営業部
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル19F
 Tel.03-6367-3666 Fax.03-3218-3887

AF003-2023-0274 5月2日 (240502)

地方会員の声

かすみがうら市での新しい活動

茨城県 二川 悦子

先日、大井川県知事から感謝状とボールペンをいただきました。新しい地域をよく知ろうと、裏の犬を借りて、毎日一時間散歩をしました。おかげで、田畑や山林、春のウグイス、キジの鳴き声、うさぎやたぬき、ハクビシンと出会いました。

常会長を引き受けて、よく地域や地域の活動を知りました。地域に多少なじんだ所で、統計調査員を引き受けました。平成27年〜令和3年までの間二度の国勢調査、土地統計、住宅土地統計、農業センサス、経済センサスをいたしました。この事でさらに広い地域の様子を知る事が出来ました。何度行っても留守の家、転居先の分からない店、初めて知った狭い道の先の家、外国人オーナー店ではオーナー不在で答えられないとのことで何度も通い、名刺を置いていつてほしいと言われもしました。狭い道やげいしい通りでの家探しに運転への心配、意欲だけでは、やれないと気が付き、他の人にお願ひしました。

新入会員の声

コロナと共に

目黒支部 高橋 圭介

三十七年間の教職人生の最後の四年間、校長職を経験させていただきました。先が見えない中で、選択・決断の毎日でしたが、先輩の校長先生方に支えられて退職を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

現在は会計年度職員として、めぐろ学校サポートセンターで仕事をさせていただいています。子どもたちがいない職場は大変寂しい限りではありますが、感謝の気持ちを忘れず、今しかできないことを自分にしかできない方法で取り組んでいきたいと思っています。

現職の時にはできなかったことを、一つずつやっていくことも、もう一つの目標として過ごしていきたいです。



**ご希望のご予算に合わせて
お葬式が執り行えます**

東京都退職校長会会員の皆様へ

東京都民互助会は、東京都退職校長会 会員福利厚生の一環として
昭和51年4月より団体契約によるお葬式サービスを提供しております。
会員ご本人様はもとより、ご家族ご親戚の方々もご利用いただけます。

365日24時間 いつでも 迅速対応

 **0120-849-544**

直葬・家族葬はもちろん ご弔問の多いお葬式まで承ります

Well Life ウェルライフグループ

東京都民互助会 平安祭典

本社:東京都杉並区上荻3-15-17 営業本部:東京都練馬区北町5-18-15 3階 TEL03-3396-7231

ホームページ 

(令和5年7月10日 届出現在)

物故者



謹んでご逝去を悼み
ご冥福をお祈り申し上げます

氏名	年月日	支部名	校種	年齢	名簿頁
樋口 駿	4.1.20	葛飾	小	91	26
須田 忠治	4.12.12	八王子	小	92	30
小林 彰治	5.1.9	千葉中部	小	93	59
秀島 照次	5.1.16	八王子	高	93	30
西川 至	5.1.23	千葉中部	小	100	44
信夫 清彦	5.3.16	日南	小	78	37
青柳 健一	5.3.21	品川	中	91	6
渡邊 信夫	5.3.30	町田	小	88	34
橋谷田千代美	5.4.11	練馬	小	92	22
武田 圭喜	5.4.18	練馬	小	97	22
長塚 明雄	5.4.18	日南	中	84	37
田野倉訓郎	5.4.22	西多摩	中	91	54
早川 勉	5.4.23	練馬	小	70	24
吉川 博千	5.4.24	西多摩	小	96	51
阿部壽榮子	5.4.25	杉並	小	79	17
田中 博	5.4.27	八王子	小	74	33
稲垣 文男	5.5.2	西多摩	中	76	52
山根 光	5.5.6	千葉北部	中	87	62
今村 重仁	5.5.15	千葉中部	小	88	45
高橋 信雄	5.5.22	文京	小	96	2
齋藤文太郎	5.5.26	千葉西部	中	92	60
永塚 勝子	5.6.2	葛飾	小	78	27
佐藤吉之介	5.6.4	千葉北部	中	96	41
長谷川鐵夫	5.6.22	武蔵野三鷹	小	92	40
片岡千壽子	5.6.28	日南	小	88	36
栗岩 英雄	5.7.2	新宿	小	93	1

※頁は令和4年度発行の新名簿による

(福利厚生部担当副会長 増田 稔)

応募コーナー

俳句



川土手の崩れし跡のつくし摘む
近江路の見上げる天守や初時雨
過疎の村残りし家や冬灯り

大分県宇佐市 東 憲夫

短歌



北斎のうねる大波思わせる
雲を背景に百日紅咲く
朱墨つぼ新しき筆そつと入れ
抜き差し見れば灯穂のごとし
廃墟なる生家の築山母植えし
山百合の花一面に咲く

墨田支部 河原敏子

参観日ふいの指名に応答と
言葉返さず母の顔みる

粘土こねうさぎをつくる子らたちの
横よりそつと親が手を出す

声そして九九を唱える参観日
教室に入りてそつと聞いている

中野支部 田中弘志

編集後記

現在、本部、各支部が会員に
有意義な活動は何かを模索して
います。活動を支部単独ではな
く、合同で実施することは新し
い一つの方向です。

執筆を担当された方々が、限
られた字数の中に、自身の想い
や伝えなければならぬことを
表現するために苦心されている
ことが伝わってきて頭が下が
りました。

これからも執筆者は大変です
が、東京から遠く離れて生活し
ている会員にも分かりやすく楽
しみにしてもらえらる会報をと、
編集委員のひとりとして思いま
す。

ところで、教育は、学校だけ
ではなく、学校・家庭・地域が
一体になって成果が得られると
考えています。

日本社会の基本的な文化を語
り合い伝えていく場が家庭教育
です。今、母親も仕事をもち新
しい機器を使いこなした活動して
いる人が増えていきます。その一
方、地域では人の関わりが薄れ、
子供を共に育てることができに
くくなっています。学校でも人
との関わりを深めていく教育活
動が求められます。

(大須賀 敬子)